



新年のご挨拶

有松まちづくりの会会長 竹田嘉兵衛

明けましておめでとうございます。

本年は兎年です。兎は穏やかな性格ですが、軽やかに跳躍して高い頂を目指す象徴です。

重要伝統的建造物群保存地区に選定され、日本遺産にも認定された有松が、更に世界から人々の集まる魅力あるまちに跳び上がっていく年にしたいものです。



有松町家ライブ開催 (12月10日)

今年最後の町家ライブが行われました。

「チェロと共にクリスマスライブ」チェロ奏者有泉芳史氏の軽妙なトークと共に荒城の月など馴染み曲6曲のチェロの音色を参加者30名程と聴かせていただきました。更に熊田靖子さん(写真右下)の朗読もありました。阪神大震災復興コンサートを話題にした絵本。

「一人一人の心を繋ぐ音楽の力を感じ取ってほしい」とのメッセージが伝わってきました。

会場の棚橋邸は元棚橋医院。故棚橋龍三医師はチェロ奏者で、ふさわしい環境での演奏会でした。



町に賑わい 徐々に戻る

コロナ感染者が増える昨今ですが、以前のような行動制限が求められてないこともあって有松を訪れる観光客は回復傾向にあるようです。以前見られなかった大型バスでの団体客もちらほら。そのような時は絞会館や付近の東海道には人が溢れ、コロナ前を彷彿とさせています。

また、今年も実施された名鉄「秋の有松めぐり」の効果も関係しているようです。

「まちなみツアー」参加者は昨年より少ない目でしたが、「謎解きラリー」の方が岡家住宅に寄っていただきました。



絞会館前での様子

岡家住宅での様子

東海ブロック町並みゼミ 有松大会 開催（11月26日）

全国町並み保存連盟の東海ブロック町並みゼミ有松大会が開かれました。最近のコロナ感染拡大もあり参加団体が2団体に止まりましたが、有松の今後を考える上で示唆に富む会でした。

保存連盟理事の浅野聡氏・有松まちづくりの会会長竹田嘉兵衛氏の挨拶の後、始まりました。

● 講演「本物に出逢える町 有松」根尾文彦氏（桜花学園大学教授・観光総合研究所所長）

観光とは、交流で人に感動を与えるものである。

有松には本物の美しい絞りがあり、本藍染にも出逢える。今でも絞り産業のまちである。絞りまつり以外の時にも訪れてほしい。そのために、感動を生む体験活動や伝統作品とコラボした製品作りが必要である。食事できる場所も増やしたい。根尾先生の有松への思いがあふれたお話でした。



故竹田耕三氏作品より



● 加盟団体より近況報告

"伊勢河崎まちづくり衆"からは、ここ30年続けてきた川を生かした町づくりの様子が紹介された。また、"二見浦 賓日館の会"でのおひな様めぐりも紹介された。この元旅館の活用方法を考えたい。有松でも福よせ雛の取り組みが数年前から行われており参考になる。



川を生かした町づくり・お雛様めぐりの様子

"しずおか町並みゼミ"とは、連盟には加盟していないが全国町並みゼミを感じ取れる会として誕生。2020年の沼津大会を報告。古いビルや蔵を残していくため「まちなみ美術館」という壁面活用の取り組みが紹介された。



「まちなみ美術館」取り組みの様子

● パネルディスカッション「有松の近未来を金(GOLD)未来にするには、何が必要？」

パネリスト4人からのお話。中村倅子氏:住民の方にこそ有松を知ってもらいたくカフェをしている。観光案内所・休憩所・トイレ・資料館が欲しい。加藤明美氏:あないびととして有松の素晴らしさを伝えたい。川口廣次氏:有松の魅力に惹かれ移住してきた。自宅で手作り小物の販売を行っている。栗並秀行氏:市職員として10年前から関わっている。本物を味わえるまちにしたい。今後は建物の活用が重要になってくる。途中から河村市長が参加され、有松に賑わいが欲しいが住んでいる人が静けさを求める気持ちも分かる。まちとしての提案がほしいとの事。



有松と美③ 竹田家茶室と洋間

● 茶室「栽松庵」

竹田家敷地の南西角に入母屋造萱葺(屋根は鉄板で覆ってある)の数寄屋座敷の茶室「栽松庵」があります。有松の美そのものです。竹田庄九郎家から明治の初めに譲り受けた建物と伝わり、小田切春江による俯瞰図にも同形状の建物が描かれています。竹田嘉兵衛氏は「正確な年代は分からないが、建てて200年は経っているのでは」と。庄九郎家には14代将軍徳川家茂が2度も訪れています。文久2年(1863) 229年振りの上洛と慶応2年(1866) 第2次長州征伐の時です。

茶室はもちろん貴人口です。茶室の前に6畳と8畳の部屋があり、部屋からの庭の眺めは街の喧騒を忘れさせてくれます。中村昌生氏によると、「当時の竹田家の主人が、独自の境地から貴人のもてなしのための工夫を凝らした作りにしたのではないか」と指摘されています。



● 洋間

設計は名古屋の茶家吉田紹清、大正8年(1919)までに増築。当時は一級建築士がない時代で、茶家にお問い合わせでした。起し絵も残されていて、和紙で立体的に作られています。明治に入り、椅子や机のある部屋への要望が生まれました。二間半四方の広さに、床は絨毯敷き、天井は折り上げ格天井で、中に絵が描かれています。障子部分は大正ガラスで、菱組の組子で覆われています。楕円形のテーブルに座ると、100年の時の流れが感じられます。

こぼれ話 昭和61年(1986)、現上皇様ご夫婦をお通しする予定でしたが、警備上コンクリートの部屋でないといけないとのことで、絞会館に訪問先が変わったそうです。



起し絵

有松まちづくりの会役員会(12月26日)

有松での日本遺産事業について、具体的事業を継続し実施していく方針を確認しました。「第8回福よせ雛さんぼ道」(2/25~3/21)、「有松資料調査保存会発表会」(3/9~12)が予定されています。

本年度も研修旅行の実施は難しいので、旅行に替えて有松についての勉強会や意見交換会の実施を検討していくこととなりました。

秋葉大社祭行われる (12月16日)



秋葉様

川口廣次の有松街並情景画②



雪の祇園寺

有松は天明4年(1784)の大火でほぼ全村焼失したこともあり、江戸時代から秋葉講がつくられ5つの秋葉社があります。今回祇園寺秋葉社の祭礼に、文嶺講の方々と参加させて頂きました。

矢野秀彦ご住職から「ご神体は天明6年につくられた秋葉様。背中に炎を背負っており霊験が強い。しっかりと守っていききたい」とのお話がありました。現在、秋葉様は本堂の中に祀られています。

境内では中町・西町の秋葉講の方々10数名が、燃え上がる炎を囲みながら談笑していました。

緑区観光推進協議会の取り組み 2 緑区 パンのスタンプラリー

緑区内には個性豊かなパン屋さんがあちこちにいっぱい点在している。お気に入りを見つけながら、古き良き街並みを巡る企画が昨年10月1日から1月11日まで行われている。有松でも築90年ほどの古民家・神半邸にある"ダーシェンカ蔵"が参加。東海地方で初めて石窯パンを導入されたお店で、有松さんぽで訪れる方も少なくないようだ。



催事・行事の予定

- 1月9日(月) 09:00 成人式(二部制)有松中学校 (有松・桶狭間・南陵3学区区政協力委員会)
- 1月14日(土) 08:00 東町秋葉社左義祭 東町秋葉講
- 09:00 左義長 有松天満社 文嶺講
- 1月16日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 1月22日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 17:00 文嶺講総会 中町年行司
- 1月23日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン
- 1月26日(木) 10:00 文化財防火デー訓練 岡家住宅

発行者 竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤 明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

